

# 保護司会会報

発行 ■ 西多摩地区保護司会 会長 吉澤洋子 編集 ■ 西多摩地区保護司会広報委員会 発行日 ■ 平成26年3月15日



■シマザクラ 瑞穂町スカイホール前にて



目次	東保連創立60周年記念顕彰式典	2~3
	平成26年度新年会	3
	各分区からの視察報告・地活部報告	4~7
	更女視察研修報告	7
	会務報告・編集後記	8

東保連創立六十周年  
記念顕彰式典

広報部  
武内  
昌一

東京都保護司会連合会創立六十  
周年記念文集

周年を記念して、平成二十五年度の東京都保護司会連合会等主催の顕彰式典、東京更生保護大会が、十一月二十六日（火）に中野サンプラザ大ホールで叙勲受章者を筆頭に、被顕彰者約一、一〇〇名、その他大会参加者九〇〇名余りを招いて盛大に開催されました。

音楽家の谷村新司氏が「こころの時間」と題して講演を行つた。休憩をはさんで、厳かに式典が開催されました。以下、会場風景と西多摩地区保護司会で受章された方々です。（敬称省略）



会場（中野サンプラザ大ホール）



開会式



受付



## フィナーレ（ミニコンサート）



叙勲受章者



谷村新司氏

關東地方更生保護委員會  
委員長等表彰

(青梅分区 内助功劳者)

吉澤  
義夫

武内昌一(羽村分区)

篋本 洋子(青梅分団)

全國保護司連盟理事長表影

乙幡 欣也

綏復章

桑田 孝一（青梅分区）

瑞宝双光章

**日本更生保護女性連盟会長表彰**

坂本 洋子  
(福生市更女)

細田 忠昭 (青梅分区)  
三ツ木謙三郎 (青梅分区)  
本橋 諒子 (羽村分区)  
諸井 森下 (青梅分区)  
江藤 茂樹 (あきる野分区)  
小野 满 (福生分区)  
木村 捷利 (青梅分区)  
齋藤 久保田千代子 (瑞穂分区)  
佐久間砂由利 (奥多摩分区)  
笹本 和子 (瑞穂分区)  
澤井 哲夫 (福生分区)  
高村 関谷 (瑞穂分区)  
田村 留美子 (青梅分区)  
徳永 初枝 (羽村分区)  
並木 濱中 (福生分区)  
福島 関谷 (羽村分区)  
山前 漢 (福生分区)  
宮田 棚原 (羽村分区)  
森本 松本 (青梅分区)  
本橋 正弘 (瑞穂分区)  
森本 仁子 (青梅分区)  
(あきる野分区)

細田 忠昭 (青梅分区)  
三ツ木謙三郎 (青梅分区)  
本橋 諒子 (羽村分区)  
諸井 森下 (青梅分区)  
江藤 茂樹 (あきる野分区)  
小野 满 (福生分区)  
木村 捷利 (青梅分区)  
齋藤 久保田千代子 (瑞穂分区)  
佐久間砂由利 (奥多摩分区)  
笹本 和子 (瑞穂分区)  
澤井 哲夫 (福生分区)  
高村 関谷 (瑞穂分区)  
田村 留美子 (青梅分区)  
徳永 初枝 (羽村分区)  
並木 濱中 (福生分区)  
福島 関谷 (羽村分区)  
山前 漢 (福生分区)  
宮田 棚原 (羽村分区)  
森本 松本 (青梅分区)  
本橋 正弘 (瑞穂分区)  
森本 仁子 (青梅分区)  
(あきる野分区)

細田 忠昭 (青梅分区)  
三ツ木謙三郎 (青梅分区)  
本橋 諒子 (羽村分区)  
諸井 森下 (青梅分区)  
江藤 茂樹 (あきる野分区)  
小野 满 (福生分区)  
木村 捷利 (青梅分区)  
齋藤 久保田千代子 (瑞穂分区)  
佐久間砂由利 (奥多摩分区)  
笹本 和子 (瑞穂分区)  
澤井 哲夫 (福生分区)  
高村 関谷 (瑞穂分区)  
田村 留美子 (青梅分区)  
徳永 初枝 (羽村分区)  
並木 濱中 (福生分区)  
福島 関谷 (羽村分区)  
山前 漢 (福生分区)  
宮田 棚原 (羽村分区)  
森本 松本 (青梅分区)  
本橋 正弘 (瑞穂分区)  
森本 仁子 (青梅分区)  
(あきる野分区)

細田 忠昭 (青梅分区)  
三ツ木謙三郎 (青梅分区)  
本橋 諒子 (羽村分区)  
諸井 森下 (青梅分区)  
江藤 茂樹 (あきる野分区)  
小野 满 (福生分区)  
木村 捷利 (青梅分区)  
齋藤 久保田千代子 (瑞穂分区)  
佐久間砂由利 (奥多摩分区)  
笹本 和子 (瑞穂分区)  
澤井 哲夫 (福生分区)  
高村 関谷 (瑞穂分区)  
田村 留美子 (青梅分区)  
徳永 初枝 (羽村分区)  
並木 濱中 (福生分区)  
福島 関谷 (羽村分区)  
山前 漢 (福生分区)  
宮田 棚原 (羽村分区)  
森本 松本 (青梅分区)  
本橋 正弘 (瑞穂分区)  
森本 仁子 (青梅分区)  
(あきる野分区)

細田 忠昭 (青梅分区)  
三ツ木謙三郎 (青梅分区)  
本橋 諒子 (羽村分区)  
諸井 森下 (青梅分区)  
江藤 茂樹 (あきる野分区)  
小野 满 (福生分区)  
木村 捷利 (青梅分区)  
齋藤 久保田千代子 (瑞穂分区)  
佐久間砂由利 (奥多摩分区)  
笹本 和子 (瑞穂分区)  
澤井 哲夫 (福生分区)  
高村 関谷 (瑞穂分区)  
田村 留美子 (青梅分区)  
徳永 初枝 (羽村分区)  
並木 濱中 (福生分区)  
福島 関谷 (羽村分区)  
山前 漢 (福生分区)  
宮田 棚原 (羽村分区)  
森本 松本 (青梅分区)  
本橋 正弘 (瑞穂分区)  
森本 仁子 (青梅分区)  
(あきる野分区)

**関東地方更生保護委員会感謝状**

**東京保護観察所長等感謝状**

小野 静江 (瑞穂町更女)

佐田登代子 (福生市更女)  
清水伊代子 (青梅・奥多摩更女)  
宮林節子 (日の出町更女)  
村野トシ子 (羽村市更女)

**西多摩地区  
保護司会新年会**

広報部 森田 一彦

一月二十二日、青梅福祉会館での新年会は一二一名の出席者のもと盛大に開催され、青梅分区広田春彦先生演奏「岩清水」の莊厳な尺八の音とともに幕が開けられた。続いて、吉澤会長から「刑の一一部執行猶予制度や高齢対象者への対応、保護司の安定的確保等の課題もあるが、皆さん手を取り合ってがんばりましょう」と力強い挨拶があつた。来賓の鈴木統括保護観察官から「二〇二〇年のオリンピックに向か、世界一安全な国づくり戦略を政府が検討している。この戦略を支える保護司に対する支援も大きな柱になるでしょう」と祝辞をいたいただいた。西多摩地区更生保護観察協会会长竹内青梅市長からは「社明運動等の活動を通し、地域の人々の絆を深める手は保護司の皆さんです」(池田副市長代読)。

多摩地区連絡協議会森久保会長からは「再犯や人材確保等の課題解決に向け皆さんと共に歩んで行きたい」等のお言葉をいただき、一同身の引き締まる思いであった。

その後、来賓の紹介、五名の新人保護司紹介、乾杯、懇親会へと移った。恒例の余興は福生分区有志による「カントリーダンス」、そして福引抽選会と進み、会場一杯の初笑いに包まれた。和やかな中に相互理解が深まり、閉会は八人の分区長揃いの手締めで幕が下ろされた。保護司としての新たな決意を胸にした新年会であつた。



吉澤会長の新年あいさつ



8分区長による手締め



懇親会



福生分区有志による余興

平成26年3月15日

## 西多摩地区保護司会報

## 研修視察

## 横浜刑務所視察研修

福生分区 村野 光治

十年に一度の大型台風ワイパー（台風二十六号）の襲来を受けた、十月十六日、出発時間を一時間三十分遅らせ、参加者十八名で出発となりました。

横・横道路別所インターを出ると、商店街に入り、間もなく住宅街となり、そこに文化会館を思わせる横浜刑務所がありました。敷地面積八五、四〇〇平方米メートルの中



平成二十三年四月には、国際対策室が新設され国際化に対し対応が進められています。

説明後、施設の視察をさせていただきました。

木工作業、クリーニング作業等々を黙々と進める受刑者を見

て、出所後も今のように仕事を

続けていけることを願いました。

昭和十一年の竣工当時は、小高い丘に囲まれただろう施設も、現在は住宅に囲まれ、高層の住宅がいくつも見える土地となっています。

いよいよ研修です。分類教育部長

より、施設の概要、現在の状況の説明があり、収容定員一、二六三名、過去には収容限界である一二〇%を超えることもあったが、現在は一、一五〇名で、うち外国人一五五名が収容され、二八五名の職員で対応、とのことです。収容者は、犯罪傾向の進んでいる二十六歳以上の男子で、六十歳以上が二〇%を占め、ここで高齢化が進行している、との話です。

十一月二十日・二十一日保護司十二名、事務局一名で福島県への視察研修を実施した。

十二月二十日・二十一日保護司二十二名、事務局一名で福島県への視

## 福島刑務所視察研修

あきる野分区 沖倉 時代

十一月二十日・二十一日保護司二十二名、事務局一名で福島県への視

施設内見学後、刑務所についての質疑応答を行った。大変有意義な三時間でした。

視察を終え、宿泊地高湯温泉へと向った。

標高八〇〇メートルの高台にある乳白色の温泉で、ホテルから見える夜景は綺麗でした。

翌日は、いわき市の被災地塩谷岬付近へとバスは進んだ。車窓か



関を入れると正面階段にステンドグラスが施され、柔らかな空間に癒される感じがした。

施設の概要を分類教育部長（教育担当）花田百恵造氏より、分り易く、

大変充実した一日間の研修旅行で

時間説明して頂いた。

来所の時とは変わって青空に迎えられて施設を後にしました。

そして、小名浜港海産物市場で昼食と買い物。無事家路についた。

**喜連川社会復帰促進センター  
栃木県さくら市 視察研修**

羽村分区 齊藤 博文

秋晴れの清々しい青空のなか十月二十八日に保護司十四名で羽村市役所を出発しました。

午後一時十五分、喜連川社会復帰センターに到着。正面にクリーム色の会社かと思われる建物が目にに入りました。平成十九

年十月、東日本で唯一PFI手法を活用した新しいタイプの刑務所として運営を開始したのです。PFIとは、公共の施設などの建設、維持管理運営等を民間の資金やノウハウを活用して行う手法で、官民協働により運営している刑務施設で、現在全国に四箇所ある。



収容定員は一、〇〇〇名で犯罪傾向の進んでいない受刑者（男子）が現在一、六〇〇名収容されている。

現在施設は職員四三〇名で、国から約二五〇名、民間約百八十名、監視カメラ二〇〇台以上で監視、警戒している。

受刑者は、社会復帰のため施設内で、調理師、クリーニング師、ホームヘルパー一級などの資格が取れるようになつて

いる。視察を通して職員の氣苦労絶えない日常がある事がうかがわれた。再び壇をくぐる事が無いよう願わずにはいられなかつた。

翌日は、日

光東照宮及び群馬県みどり市にある富弘美術館の見学。星野富弘氏の筆を口にくわえて書いた文

と絵を見て「生きることのすばらしさ」「生きる勇気」を与えられました。

喜連川の施設は広大な敷地（東京ドームの約九倍の広さ）でX字に建築された四階建ての収容棟が四棟あり、他に庁舎、体育館、職業訓練棟、処遇管理棟があつた。

**【横須賀刑務支所を訪ねて】**

瑞穂分区 関谷 忠

秋も深まつた十一月十三日（水）柏谷道子分区長はじめ保護司十四名と担当福祉係長とで、横須賀刑務支所を訪れました。

早朝に瑞穂町をバスで出発

首都高速道路で

事故渋滞に見舞われながらも、無事、視察予定地の横須賀刑務支所に到着しました。

久里浜少年院に隣接するこの刑務支所は、神奈川県横須賀市にあり、執行刑期が十年未満で犯罪傾向が進んでいない者（A指標受刑者）、日本人受刑者と異なる処遇を必要とする外国人（F指標受刑者）を収容しています。在日米軍兵士およびその家族の収容も対応しています。F受刑者は、A受刑者とは別の食事になり、厨房も別。食材もアメリカ本国からの支給

となると聞き驚いたものです。しかし、この刑務所のメインとなる石鹼の加工作業では、F受刑者も日本人受刑者に交じって、黙々と作業をしていました。

受刑者の刑罰理由の多くは、覚せい剤、ついで窃盗、そして「おれおれ詐欺」。ここにも世相の反映を見ることができます。彼らの帰住予定先は「親族の元」が多く、ついで友人・雇い主、保護施設の順となります。

この刑務支所は刑の軽い受刑者の収容施設とあって、他に比較的オーブンな感じで、約一〇〇名の受刑者は昼休みには芝生の施された運動場でからだを動かすことができ、雨天のときはやや狭いながらも、体育館で卓球などを楽しむことができます。



視察研修を終え、自らが抱える環境調整事案や対象者のことについてを馳せ、昼食の中華料理で満腹のおなかをなでながら、帰路につきました。

甲府刑務所視察研修

青梅分区 野村 賴子

十月七日～八日、青梅分区二十三名による研修旅行が行われた。

山梨県は万るには お天気もす  
つかり回復し、途中ぶどう寺と呼ばば  
れる大善寺を見学。運良く五年に一  
度のご開帳期間に当たり、本尊薬師  
如来像を間近に拝観することができ  
た。

していき、三人は一人は暴力回復係者が収監されていて、入所回数も平均三・七回で、覚せい剤など薬物使用者が最も多い。まず入所回数の高さに驚き、社会復帰の難しさを痛感した。時折、刑務官の発する号令の大きな声が響き渡り、所内は緊張感に満ちている。矯正指導に関しては受刑者の努力が評価される仕組みとなっていること。管内を歩くと金木犀が満開の花を咲かせていて、ほのかな香りが空気を和ませていた。その日は西山温泉に一泊、保護司同士の会話も弾み、親睦を深めることができた。



初めての女子刑務所視察

日の出分区　山田　みな  
前日からの厳しい寒気が残る十一月十三日早朝、日の出、檜原分区合同研修は、更女を含む十七名でスタートした。雪を頂く吾妻連峰が間近に迫る頃、目的地福島刑務支所に到

施設「富士ハーネス」を見学。  
午後には、世界遺産で賑わう三保の松原を散策した。白波打ち返す海と松林、遙かに望む富士との調和はいにしえより多くの旅人の心を癒してきたのである。富士を満喫して帰路となり、無事研修旅行を終えることができた。

島根看守長より、平成十七年に収容を始めたばかりの男子刑務所に併設された女子刑務所で、現在四八九名を収容。年内にも定員五〇〇名を越える見込みであるとのこと。問題点として、増加する一方の高齢者、障害者、外国人等への適切な処遇、半分以上を占める二十代以下の若い受刑者の指導、育成の困難など現状を説明していただいた。

着。 玄関ホールの壁面は、福島の四季を彩るモザイクタイルで飾られ、緩やかなカーブの正面階段の上に生けられた花も清々しく、男子の刑事施設とは全く異なる明るく優しい印象を抱いた。

福島刑務支所視察研修

十一月十九日（水）保護司六名と  
事務局一名の計七名で、福島刑務支  
所の視察研修を行いました。

平成十七年五月に女子施設として収容開始し、受刑者の定員は五〇〇名で、現在の収容状況は、受刑者四八四名、職員一一五名で対応しています。収容者は、無期刑を含む三年未満の受刑者が多く、年齢は最高が八十九歳。最低年齢は二十一歳で、平均四十八歳と高齢の受刑者が多い。罪状に関しては、窃盗や覚せい剤が多く、同一受刑者の出入りも多く見られる。そして受刑者の円滑な社会復帰を図る矯正処遇では、生活全般を指導する刑務官と社会常識を教える専門官が指導にあたつて出所後の就職に役立つ支援を行っています。



概要説明を受けた後、作業室や風呂場、舍房を見学しました。舍房では、どの部屋にも窓際にピンク色のカーテンが掛かっていて、テレビがあり、洗濯物が無造作に置かれています、生活の匂いがありました。また、清潔感のある内外装、ロビーに活けある花々や、鉄格子の模様もやわらかく、女子刑務所だけに、いたるところで配慮のあとが見えた福島刑務支所でした。

翌日は、紅葉が盛りの会津若松城を見学し帰路につきました。

今回の視察で得た体験を、今後の保護司活動に生かしていきたいと思います。

## 西多摩地区更生保護女性会研修会に参加して

羽村市更女 岡崎 タミ子

十一月六日に行われた西多摩地区更生保護女性会の研修で「敬和園」の施設見学会に参加してきました。

最初に園長先生より施設の概要説明がありました。この施設は東京保護観察協会が設置し運営している青少年のための更生保護施設です。少

年院や刑務所から釈放された人のうち、住居がない人を保護観察所や家庭裁判所からの委託を受けて、一定の期間収容保護し、健全な社会人として自立するよう指導と支援をしています。ここに入園定数は十八名ですが、最近は入園者数が減少しているとのお話をしました。

施設内見学後は、施設で働く石上先生の体験談を聞きました。彼女はまるで自分の家のように園生の食事等のお世話を長年なさり、時間を問わず園生のために働いていらっしゃいます。

夢をなくした青少年たちが明るい未来を目指せるように、思いやり心や優しさを導けるよう微力ではありますが、更生保護女性会員として、実践に励みたいと思つております。改めてボランティアの意義深さを知り、有意義な研修会でした。

帰路の車中では「更女」について



## 地域活動推進協議会を開催

地域活動部 松本 則夫

十一月二十七日に羽村市「ゆとりぎ」で今年度の協議会が開催された。保護観察所杉山支部長、鈴木統括觀察官、小川主任官、各市町村担当課長・係長のご出席をいただき、保護司、更生保護女性会員、民生児童委員、福祉関係者など、総勢一五四名の方が参加された。

今回の講演は、千葉大学教育学部羽間教授による「発達障害の理解と保護観察の処遇」でした。



地域活動部 松本 則夫

講演終了後、今年度の「社会を明るくする運動」西多摩地区取り組み結果につき、平野地域活動部長より報告がなされた。八市町村で関係団体の協力と三、六一六名の参加を得て各種活動を行うことができた。この運動の協力御礼と次年度の更なる推進要望を述べられ、協議会閉会となつた。

発達障害は、遺伝や先天的なものではなく、子育ての仕方でなるものでもなく、何らかの脳の欠陥であること。そして、発達障害が必ずしも非行・犯罪につながるとは言えないとのことでした。

発達障害は、発達障害がなぜ注目されているのか、また、発達障害についての原則等につき、事例とビデオ上映も入れて解りやすく講演をしていただいた。さらに、講演途中と最後に多数の方々との活発な質疑応答もあり、聴講参加者は発達障害の理解を深めたと同時に、その対応や関わりについての方向付けをしていただいた講演となつた。

# 会務報告

## 総会開催のお知らせ

日時 四月三十日(金)午後二時

会場 青梅市役所二階会議室

### 理事會報告

第三回理事会は十二月二十日(金)、

あきる野市「秋川ふれあいセンター」  
で開催されました。主な議題及び協  
議は左記。

一、平成二十五年度各部の事業執行  
状況及び決算見込み並びに二十  
六年度事業計画案と予算計画案  
二、社明運動の実務担当者会議の報  
告

三、特別研修 社会貢献活動の報告

四、総会議案集の見直し  
五、その他

**退任保護司**(敬称略)

保護司活動への奉仕ありがとうございました。

小峰 洋治(奥多摩分区)  
一月三十一日辞任

**新任保護司**(敬称略)

左記の方々が新たに保護司として  
委嘱されました。今後の活動を期待  
します。

平成二十六年一月一日発令



内田 正敏  
(羽村分区)



宇津木由廣  
(青梅分区)

### 高齢者叙勲



木村 孝子  
(元奥多摩分区  
在籍三十年)

永年にわたり更生保護事業にご尽  
力された左記の方に、平成二十五年  
十月一日付で、瑞宝双光章が授与さ  
れました。お祝い申し上げます。

対象者の参加は、実社会において、  
社会が対象者に何かをしてくれること  
ではなく、社会に対して対象者は何  
ができるか、対象者は社会に期待す  
るのでなく、社会に何が貢献でき  
るのか、を学ばせる処遇計画の一  
環でした。

昼食休憩をはさんでの三時間三十  
分に及ぶ今日の出来事が、更生に向  
けて歩み始めたような気がした。対  
象者にも、明日はやつてくる。



社会参加活動

## 社会参加活動の開催

広報部 武内 昌一

地域活動部による対象者を招いた  
社会参加活動は、十月十七日(日)  
あきる野市の特別養護老人ホーム  
「麦久保園」で午前十時より行われた。  
当日は地活部に所属する保護司、  
対象者に同行する保護司等二十二名、  
主任官、合計三十四名の参加者を得  
て、前記の介護老人保健施設で、対  
象者に社会的弱者の介護の必要性等  
を実習させた。

対象者の参加は、実社会において、  
社会が対象者に何かをしてくれること  
ではなく、社会に対して対象者は何  
ができるか、対象者は社会に期待す  
るのでなく、社会に何が貢献でき  
るのか、を学ばせる処遇計画の一  
環でした。

**◆第六十三回「社会を明るくする運動」における民間協力者に対して十一月二十六日付で、左記の学校が東京都推進委員会等から感謝状を受彰されました。受彰校は次のとおりです。**

### ■ 東京都推進委員会委員長感謝状

羽村市立羽村第一中学校 生徒会

羽村市立羽村第二中学校 生徒会

福生市立福生第一中学校 生徒会

福生市立福生第三中学校 生徒会

青梅市立第三中学校 生徒会

あきる野市立五日市中学校 生徒会

あきる野市立東中学校 生徒会

あきる野市立御堂中学校 生徒会

### 編集後記

◆第一一二号会報は、昨年秋に行  
われた保護司会行事及び各分区  
の観察研修の報告等を写真をま  
じえて編集しました。執筆いた  
だいた方々には感謝とお礼を申  
し上げます。と同時に今後とも  
ご支援ご協力を賜ります。

## 平成二十五年度社会を明るくする運動への感謝状